百人一首案内抄

へ4
3771
2

門へ利4
3774
2-2

宮内省図書寮

百人一首峯梯下卷

蒙求実方朝臣

祖父ハ小一條左大臣師尹公父ハ大納言左大將師氏ナリ
相模守ニ成ル由此朝臣ハ左兵衛佐ナリシヲ相模
守ニ成シ又扶桑畧記ニ陸奥ヲ任ラレ國ニ下ル
ヘカラシメシ人多シ
のくとなるこゑハいかにきけさしもさしもとしるもゆるかな
故於遠案意ハ女ニ戯テつゝ〳〵くるとあり
○カウ〳〵ヂヤトサヘクハシウイヘバヨケレトロデハ心ニ思フホドノヲ
ヲエイハヌ ソレユエ自ノ中デクヨ〳〵トモグサノモユルヤウニ思ヒノ火ガ

七エテ月七コガル、ホドノコトヲサウトセ思ヒシラヌヨナ　四月さしも

四の白を結白の下へつけて主はべし　えやいふといへると

と伊吹山社名をうりてづく思ひふもゆるといふも

をバさしもぐさ小ふとを為り　伊吹山ハ下野国小あり

蒙求注解

祖父ハ孔條右大臣作補云父ハ恒法云ふり云ハ法住寺殿

公ふり注解ハ栄花物語小栗田寛白注蓮云の巻子

と京れりとこれ也此解ハ社る中大臣ふも出為り

明ぬれバくゆ物と八志カ京ゑ〻狩ら〻発しき解ば〻けう新

塙於注集意初二小女社もとらり雪社ふり侍り今風日

強サてつのハしれる　うへ侍され注せハ八るうゑれどと

くるゑ山どふを解のある雪此つぎ小今社ふ京ゑ〻べ入為り

をしゑのきれ雪社注ハ右の京ふいひてつぎにまこのれし

情をいへり

○夜ガアケレバ日ガクレ　日ガクレ、バ又夜コトハセトヨリ　知テヨリナガ

ラ昼ハワカレテ居テサビシウクラスユヱニ日ガクレ、バ今宵モ又夜テウ

レシイト云コトハワスレテ又昼ニナルカイト思ヒテ夜ノアケルノガヤッ　拍

バリウラメシイコトデハアルコトカナ

あさぼらけをゆの白の上ふつれてきはべし

右大将道綱母

是程つれ父ハ東三條摂政兼家公也程々ハ長徳二年任右
大将同三年大納言長保三年正二位寛仁四年薨母ハ正四位下
藤原倫寧女公つ補任大鏡ニ見ヘ又大鏡ニ是程々のこ
とをいひて法母ハ極めあるべきの上まうておハしそれバこの
度のこのるひそるほどのことなどこまかにあつめて博物日記と
名づけて云々とあり

京ぐきつ物ぬる物のあくる後ハいのふひさしきあとうハしぬ
於是業忌初ヒ入道摂政殿ハ後の御堂殿ニ後の御堂殿ハ
おそくあそれバ多ちつゞひぬといひいれて侍りそれ
バるみていぶしそるとあり

○君ノ仕ナサレヌヨナゲキく物リネマスル夜ノアクル方ハドレホドヒ
サシイカデヤト思ヒマスゾイ ソレハく久シイ百デ難業ナコトデゴザ
リマスソレカラ見マスレバ門ノアケヤウガオソウテ難業ヲシタト侍セラル
ハナンデモナイコトデゴザリマス

儀同三司母

儀同三司伊周公の父ハ中ノ関白道隆公也伊周公ハ正暦三年
十九歳ニて任権大納言同五年越大将任内大臣長徳二年
坐事左降大宰権帥同三年召帰京寛弘二年勅列大臣
下大納言上同五年准大臣給封千戸同七年薨自号儀同三
司々詞記る見由母ハ従二位高階貴子朱雀女従三位貴子

○百人一首峯樹下

世大臣ふくりゝくゝゝゝ

玄札しのけすゑ由でハのゝこゝれバそふをこのぎりの命ともの形

彩古今集序ハ三ふ中ノ冥白のるひそ名付りゝはけて有

○イツマデモワスレマイトヤクソクシタマヘド男ノ心ハカハリヤスイモノニテソノ約束ノ通リニ ワスレマイトイフコトバガ未マデハツヾキニクイモノナレバワスヱマデ生テ居テウイメヲ見ヤウヨリハイツソ今ノ心ヲ塩ノ世ノ思ヒ出シグサニシテ前方カヤウノコトモ有ダガトソレヲナグサミニスルガヨケレバ大切ナ惜イ命ナレドイツソ今日ギリニ死(いのちとも)デシマイタイコトカナ

大納言公任

祖父ハ情先公父ハ廉筆公母ハ三条中務ノ代ノ親王女ノ情

先公ハ小野宮実形公廉筆公ハ形右公の謚なり公任ハ寛仁六年三月権大納言同九年正二位治安元年正月兼按察使四年十二月致仕長久二年正月薨称四條大納言ト云ツ補任

誌記ふ見ゝゝゝり

滝のおとハ絶て久しく聞ぬれど名こそ流れて猶きこえけれ

拾遺集雑秋ト小大見ちふ人ゝあるゝ歌ゝりゝ見ふ

ふるき滝を見てゝみ付りゝ見ゝとありて義白滝のいと

ハとあり千載集ふもあやまりてふゝびれせゝれ歌

り詞ヲ同じさ歌ゝて已文ま今れごとし

○滝ノ名ノ青ガタエテ年久シウナツタレド此滝ハ天子ノ白ツクリナ

サレタ結構ナ滝デアツタレバ ソノ名ヲサイヒフウシテ今ニヤツパリ
シレテアハワイ 滝サヘカウデヤニヨツテ勿論人ハ一代名ハ未代デヤゾヘ
ホゾれてといひきくといふ皆滝の縁語ホリ此滝ハ嵯
峨天皇のつくり給ひしホリ 大見ホハ端緒ホあり端
緒境ホ場トホリて後大見ホといへり

和泉式部

父ハ大江雅致母ハ右子内親王乳母越前ホ保衡女せといへ
リ一条院后彰子上東門院北女房和泉ホ橘道貞の妻ホ
リといへリ後於道集ホ和泉へ下り侍りケルホしこへ
後ホ丹後ホ保昌ホそして國ホ共ニくるしく金葉集ホ

ホ集ホホ見ホ初め冷泉院の四皇子敦道の寵給へるほどの
ほ式部和泉大流ホりどホふんこうり
あくざこん此世のほこの昌見でホいはひとるべの道ほ
後拾遺集ホ式部三ホ心地侍りケルホころ人ホもく
ホつらホしくるとあり

○右ホ次ホニオセツテセウハ此世ニイキナガラヘヤウトモ見エマセズ
迎付死ツスデアラウガ死デ切サキデノ思ヒダシグサニ京シイアナタ
ニモウ一度逢タイコトカナ道ズニ死デハ生ガ残ツテ思ヒノタネニヤ

紫式部

祖父ハ中納言為頼父ハ性忠位下為時ホ為ホ

○百人一首峯梯下

京宣孝の書ものしを宣孝はやく身はうりて後ハ一条院
后を上奈つ院ハつのへなれり紫式部といふを詞ゝあれど
こゝハ〻しつけ人原氏物語作者ものり

発句あひてみしやそれとも白のぬまハ雲ぞくれふしをゝの月哉

此句今集雜部ハをやくちゆゝを袖ぶちハ作りをゝ人
のをしゝろへて此あひゝ風ぞ浮のこゝハて七月十日ばろ
月ハきよひて物ハ作りをれバとあり

○メグリ出逢テアレハ見ゆタヘヂヤガソレデハナイカトトクト思ヒ見
定メヌウナニ見エヌハテウド夜ヨナカ月ガ雲ニカクレタヤウナ名残ヲ
シイコトデハアルコトカナ

大貳三位

父ハ藤原宣孝母ハ紫式部大貳紫章の書ものり一條院
治乳母なれバ三位ハ紀せゝれしあゝん

左ゝるゆゆ原のさゝ原風ふえバいでそよ人を忘れやハする哉
後拾遺集恋部三ハうれぐあるをとゝのおぼつかふく
ちりぐいひゝふを風ハをとめるとあり

○君ハ私ニキツイブサタナコトヂヤト不足ヲ言セラルゝガ君コソウトく
シウナサルレ上三句イヤモウソレヨ君ヲワスレヤウカイクスレハイタシ
セヌソンナドウヨクナコトヲ言セラルゝナ一旦ヒヲシタヤクソクヲワス
レルヤウナ私ガヤゴザリマセヌゾヘ

○百人一首峯撰下

上三句そらくいちんの序歌　きるぬハ首馬弥猪名
望ハ河邊郡ホてやもホは國名ゆ

赤染衛門

赤染氏ハ日本紀天武條ホ赤染徳足（ノトコタリ）といふ人ゆ見ゆる姓氏数多くゆ父ハ大和守ゆ用匡（サヨフ）の書巻（タカ）
国の母なる事法記ホ見ゆ袋草子に始用伝右兵衛尉号
ゆ

といへり

至ちゆハでハ赤染しるめをさるなてうゆふく後での月をゆし
後拾遺集新二ホ中冥白（兄弟）ゆ始ホ作りそる始ゆ
赤染なる人ゆものいひゆ作りそゆ多れめてゆさゆを

望（ボウ）ゆつとめて女ホこのハゆてらあるとあゆ

○ヒトヨリ偽リト和タナラ　見合テ居スト勝（やすゝえで）ニネヤウデアリツタモノヲ

キツウ我ノフケルニデハ生ガアフウト思フテ深セセズ待ツトテ　月ヲ

カメテ居テツヒニハ西ノ方ヘ入ニデナガメテ居タコトデハアルコトカナ

小式部内侍

父ハ和泉守橘（タチバナノミチサダ）道貞母ハ和泉式部也内侍ハ堂侍（ナイシノスケ）ゆ作ゆ
内侍ゆ呆ゆ始ゆ和歌ホ見ゆ
を始終に赤ゆ〳〵ゆホ
ゆゆ〳〵ゆる赤〳〵ひて
大江山歌（望の字）のとゆ
○百人一首鑒撰　下

ゆゆるやゆホ國語文法言実方中将
ゆのけるゆるべし
それハゆゆ母みゆ天のをしを

金葉集雜部上に和泉式部保昌ホクとして丹後國小侍従
そばとろ部ヨ所合社多ん侯に小式部内侍ホクとみにとら
れて侍りける時中納言定頼局のうへにはゝとゝきこゆ
ハいのじせさせ給ふ丹後へハくつゝしそんやつのひゝきゝで
こゞせいのよもぎもとゝふくおぼすゝんなど函をこいれて
ゑちけ侯をひきゝ少ゝ見てらめるゝとゝあり

○母ノ下ッテ居ニスル丹後國ハ大江山ト云大キナ山ヤ峯ト云イク
ウモニロイ峯ヲトホラネバ行レヌ所ノ遠イ國ナレバ カノ國ヘ下リ
一シテカラ マダ書狀ノトリヤリセイタシ一セヌモノヲ
大江山幾峯ともに丹波國なり 出ずをこの國の

名所の天のはしたをふミ見ぬにいひのけ侯り

伊勢大輔

祖父八系ヨ大中臣能宣朝臣父八系ヨ輔親朝臣也筑紫
百首詠集の書系るゝ坂枝集哀傷の部ゝ見ゆ伊
勢ト八系ヨの女房ホいふ侯べし

いにしへの奈良ノ都ノ八重櫻ケふ九重にゝほひぬ侯ける
詞花集春部一ヨ一條院御時奈良ノ八重櫻を人ノ社奉り
けゝ侯その時ノ御前ニ侍りケレバ奈良を題にてうよ
めと仰ごとありけれバとあり

○昔ノ奈良ノ都ノフルビタ八重櫻ガ今日九重ノ今ノ上ノ御前ニ

出テ二度時ヲはかテ　白ヒガ一サツタコトデハアルコトカナ

大ぶ白ハ色をいろ家り　さふ九重を今日此宮ゆ

いひのくるこり

清水の翁言

父八清水元浦家ふるる物筆子にもれんこり史ハこれと

もたゆ〻ごし老の坂四國ぶ色におちあふれ多りしよ

しいへど高祝家〻んと続ク栽集のおをひきて炭俵

ぶいへり

狗をこめてらめそらい祢ハはうるこも世に色坂の実ハ世ぶ

坂於世集雑部二に大納言ゆ家ぶ〻りして作り

なるに肉の内ハ三ふふこもれバとていそぎ改りてつ〻めて　翌朝

多の数にそらぶはされてとといひおこせて作りなれバ狗

ふの〻りなんるれ〻ハ函谷実のことにせといひつ

うしなるをたのへりこれハ色坂の実ふ作るとあれバ

らめ侍とあり

○昔孟嘗君ガ雞ノウソナキヲサセテ函谷ノ実守ヲダマシテ通リマ

シタガ　夜ブカク鶏ノウソナキハ此タバカリナサレテ此ダマシナサルト

モ函谷実ハドウアラウカシラズ　男女ノナカラヒニアル色坂ノ実ハ

ソシナウソナキニメツタニダマサレテユルシテ通シハイタシマスマイ

孟嘗君ガ此事ハ史紀の列伝ふ〻こり　世といふこ

○百人一首峯崩下

上の小野ノ宮ノ事ハあるとおぼし

左京大夫道雅

父ハ伊周公也道雅ハ公々補任ハ長和元年従三位左中将
治安三年四月廿二日左京権大夫長元九年同従位とあり
業忠朝臣ノ日記ハ此歌のところハ三位中将とあり
今ハ為ひ松もひ絶れんとバかりを人伝てにこそ聞くもうれ
後拾遺集恋部三ハ伊勢の歌也ゝ中ちかなりて侍り
々歌人三条院第一皇女第子内親王なり ハ去のびて西ひがしをおはせをハも
変しめしてハ後もわ女ゝつけさせ給ひて思ひみもの
ちハ人ハ恋ゆハ人々れバちゝ侍りそうとあり

○イヒタイコトハタントアレド人ガ義ヲシテ居ルホドノコトニ及ビタレバ
トニー為カ方ガナイ モウハ思ヒ切リテシマハウト云タヾ一言ナリト侍
言デナシニ義テスグニ云タイコトデハアルコトカナ

権中納言定頼

父ハ公任卿也定頼ハ長元二年任権中納言同十年従二位
長久三年正三位同五年従位明年正月義と公々補任法記
ハ見えしゝ

新ぼうけ字治の河辺多くゝハ所ゝ見えるる歌ゝのあゞ拾
子載集々ハ治ハ字治ハ侍りて侍りそうはなるとあり
○宇治ハ山モ河モ景色ノヨイ一所デイツデモ面白イ一所デヤガ 夜明ガ

タハ宇治川ノ夜ノ雲ガタエ〻ニ消テソノ百ヨリ後〻ニ立テアハ
アシロギガアソコヘセコヘセアウハレテクルハ夜明ガタハ格別ニ面白イ
ウセイヘヌ景色ヂヤ
結白をせの白の上ふつて立ぬべし　宇治川ハ山城国ふ
り　細代木ハ永多を立ル料ル和ふり

お授

父ハ源頼光郎ヲ也或ル也ふ為ニ大江公資朝臣ふ授ル
依之号お授ル名ニ付授入道一ふ也女房ふりしらしん
和後拾遺集雜部ふ公資ふ作しても
らしもれし和ふり

うゝみるびはさぬ袖ぐふある和を立ふくちあん名ニそ惜れ
後拾遺集恋部ふ永義ハ後内裏の歌合ふとあり
○ツレナイ人ヲ年久シウ恨ミアグンデ　恨ミノ涙ニ袖ガヌレドホシ
ニヌレテクナルガソノ袖ノクナルサヘツライニマダソノ上ニ立ニクテハタ
ス名ガサキツウ惜ウコザルワイ

嵯丈像ふ仏ふる

父ハ小一條院法子冬〻後基平つ也号平ふ院像ふ保安ふ年
補ふ暦ふ生ふ天治二年乙月任大像ふ初ふ熊野三山撿校山
伏修験道事保ふ元年乙卯二月五日入滅ふ右記ハ昌記ふ
ふ尺ふ此像ふ北ふる続世後拾遺ふ也へくふり平ふ院ふ三

ずるふあり

佐ともふあハれと思へ山ざくらさくらはなのふもとは人もれしと

今ハ堤集雜部上ふ大家歌ニ思ひうとぬ桜のさき毎ゆゑ

侘をこれてくをゝるとあり

○大家ハキツイ深山デ老ノ雨ト八熟柿ノ枝ヲモカハツテアルニ思ヒガ

ケナク四月ノ遅桜ガ一本咲テアルヲ見身タ桜ハ京ニテメナレテ格別

ニ思フモノナレバナヤウト近付ニ是タヤウニ思フテキツウ心ヤスクナジミ

ノヤウニ思フホドニ　桜ヲヨ汝モモロトモニ我ヲ深切ニムツマジク思フテ

クレ此山中ニハ汝ヨリ外ニ近付ハナイニ

三の句をそ句の上ふつゝて言はるべし

周防内侍

父ハ周防守藤仲也此内侍後冷泉院ふつこへ参りし事

後拾遺集ふ見ゑる多り

春ハ夜ハ曙ハのゆ礼ハ桜ふのひ京く毎しん名ゝそ惜それ

ゆ栽集雜部上ふきさゝぎハのゆ月れあの手枕二條院時分

ふて人ゝあ皮ゝ居あのして枕もの京と思ひ也ゆふいふを笑て大

周防ゆりふして枕もの京と思ひ也ゆふいふを笑て大

納言忠家これを皮くゝふとてのひ京をみすれし毎ゆり

さしいれて付ゆそれバゆ京とあり

○春ノ夜ノミジカイ事ノ多ホドナチヨツトノ間枕ヲシテ伺デモナイ

コトデ立ラレヤウ浮名ガサ惜シウゴザリマスワイ

のびゆくを時ふいひのけ〳〵るぞ多くみゆりそる花ゆ

れのへしふも　袋りあれて春れ和ぶうきを格をいゆ

うひゆく変ふゆすぐきとあり

三條院

大法父ハ冷泉院大法母ハ大政大臣兼家乙三女賜皇太后起

子也法諱ハ居貞トヤ申る寛弘八年十月廿五位長和五年

正月譲位寛仁四年四月依法悩法出家九月九日崩法三條院と

百孫抄業平地獄ふれんしゝり

ゐふもの〳〵ぞうにゆゆ家ゐ〳〵べとひしうるべき物まのつきこの秋

後拾遺集雜秋上に題しらずおりしやうして位をゆずりさん

と思しめしなりぬるつ月れ位をりそるを法皇ゆ

○宮負ガヤケテ心ヲナヤメテ居ル上ニカヤウニ不例ニテ次第ニオモツテ

ハテンニ召セ有マイト思ヘバ位ヲサウウシ又ウキ世ニアキハテタレバ早ウ

死タイト思ヘドモシ　心ニ思フ通リニカナハズ思ヒノ外ニウキ世ニ生ナガラ

ヘテ居タナラバ今夜ノ明カナル月影ガ恋シウナルデアラウヤウニ思

ハルコトカナ

業平地獄ふ内れ世そて家ゆのせ給ひ又俤ゆ家〳〵ゆれみおハ

しまして法ゆいと家ややしく思ふるゆ多くゆ人と多

少　改観ゆふ此帝法目も法説せ〳〵れざれゆし大臣に

そして此は製八を表めきて後くにこのゐしきといへり

能因法師

父ハ肥前ゐる橘元愷能因もと此名ハ永愷と法記にこれとあり

り後拾遺集ハ此國らそべといふとてろにてらめ風 ヨ

ゐせどの格の箕にたゐ後の山ハこれこゆ京りゆくと

あれバそこ不すみしをり

籠蛾くゝ宮の山此ゐ葉ば八半ちゐ川此にしきゐりをり

後拾遺集秋部下に、永義四年内裏ゐ合にとめるとあり

○三室山ノゐ葉ヲ嵐ガ吹チラシテ立田川へ流レテキテ此川ノ綿ト

ナルデヤワイ

二三一とりを次第してきはべし　三室山ハ龍田川の上に

ありて立田川此邊ゐ後拾遺ハうゐ後ゐ誤りいと多し今

集清原深養父ゐ歌に弥ゐび此山をるり秋ゐれバ夜

ゐ川にぞぬさハこもくゐと云ゐハ大和國の京ゐび山

城國と津國のさうひにて今此京ゐり淀山崎を過て

津國西ゐへ通る道ありうゐ後ゐびにそをも大和國のと

思ハれしハ誤り京ゐり

良暹法師

父祖ゐゐび大原に住ゐ後拾遺集にこれこゐりゐ能

因京ど同じ時此人京ゐりゐんゐもこれゐ

さびしさに宿を立出てあゞむれバいづこもおなじ秋の夕ぐれ

後拾遺集秋歌上に題もしらず読人しらずとあり

○樹リツイクリトミテ居レバ サビシサニ 外ノ所ハカウデハアルマイト思フテ 家者ヲ立出テナガムレバ秋ノ日暮ノサビシイハ何所モ同ジコトデヤハ

結句をいと句の上につゞけてきはべし

大納言經信

祖父ハ六條院右大臣俊房公父ハ權中納言匡房卿ト稱信ハ彰保四年正三位永保三年權大納言寛治元年大納言ハ後六月大享徳四年嘉保三年正月薨於西府ヲ〻公ハ補任に見ゆ

夕されバ門田ゐなゞ音づれて芦の葉ごしに秋のかぜ吹

金葉集秋歌に作賀茂の橋姫の山里に人〻住うて田家秋風といふことを詠るとあり

○日暮ガタニナレバ門前ノ田ノ稲葉ニソヨ〻ト音ヅレテソレカラ芦ナドデ(あしの)

風根ヲフイタアバラヤヘ秋風ガ(あらし 嵐)サヾ吹テクルハ

祐子内親王家紀伊

内親王ハ後朱雀院皇女京極御息所腹ニ紀伊ハ敦

佐平經方女紀伊守重經妹京極ニ出仕ス

ふハそれ秋につゞく所をいふなり

音にきく高砂の浦のあゞ波ハうれしや袖のぬれもてそすれ

金葉集哀傷部に播磨守定綱書合にあるとつゝり

○世習ニキコエタ評判ノアルイアダ（音又きく）（あゞ浜）シイ人ニハワシハ思ヒヲカケウトハ（のけじゝ）

思ハヌヨモシ思ヒヲカケタウホノトホフヌ袖思ヒヲシテ泣ミノ浦ニ袖ガ

キツウヌレモサ（ナヽ）セヤウワイ

哀傷ハ和泉國ちゝ　青のるまきをうる作法といひの

けあゞ浜うけじとともに深海ちゝ

前中納言匡房

大江氏ハ上にいへり大江音人ちゝナ（フハ）古（コレトキ）達（ナリ）ノ三ツ（マサヒラタカ）

周朱衡匡房とつゞけり匡房ハ寛治八年権中納言永長

二年兼大宰権帥康和四年権帥任終二任長治三年再任

権帥を永二年大蔵卿同十一月蔵人卿補任に見え多り

つる物の花のへの桜さ紀にそりとやはのすゝ多しずもあゝ京ん

後拾遺集春部上にうちぬれおほい法ゝちぎみ紀氣に人ゝ酒

多うべて所ちゝ作りけ法ヨ遥に山の桜を望といふことを

ちめるとつゝり

○八ルカ向フノ山ノ峯ニ桜ガ咲テアルワイアノ向フノ山ノ麓ノ山ノタワ（外山）

（ちゝ）（ちん）

二度ガタツナヨ　度ガタテバアノ糸ガ見エヌホドニ

うゝ法京びに戸山津見てふ郭の法名をひきて外山ハ山の

ヘの意ちりといへれど作法に八戸山津見の戸ハ峯紫集

紀氣に山紀とのげとつる此ゝ同じことにて多ワゝ有り

といへり是をもて思へバ外山もこゝろあるべしこゝろの
山ちかくすみなり遁かるる山ちかくの梅の花あるさまなり

源俊頼朝臣

父八大納言経信なり俊頼朝臣八木工頭成八左京大夫にて従
四位上なり

うのはなの人をとつるの山おろしはそぞしかれと八折ふしもなし

子載集意ハ二種中納言俊忠卿に意ハ十首ハ分ちて
侍りし時初ふる意意といへるこゝろをとれり

○ツレナイ人ヲ　イロ〳〵ニイフテ意ヒ慕フテモツレナイユエ神佛ニ祈
ウラミタル

ツタナラソノ人ノ心カ変ヤワラグコトモアラウカト思フテ泊瀬ノ観音
ヘ祈ヲカケタトコロガイヨ〳〵ツレナサガツヨツテ中ミヤワラガヌコレハイカナル
コトゾ　泊瀬ノ山オロシヨコノヤウニツヨレカシトハ祈ヲカケハセマセノラ
キコエヌ祝言デヤワイ　そぞしかれ　いのらぬものを

そぞしきといふよくぞ山おろしに孫ハ

藤原基俊

祖父八堀川右大臣顕房ふ父八正二位右大臣俊家ふ基俊ハ
従三位下右兵衛佐なりしを法橋に成し安八下望する所業の
女なりけんを続世継物語ハ見えたり

嘆り恋しさせもぞ家を今ハてなれしことしの秋もいぬ先ハ

子載集雑部上に俊光卿　藤原俊光の俊家の息なり　維摩会の講師の請を

多びくもれにれば最大政大臣法性寺右府に仕ミヤケなる者基俊ありし
めぢが原新古今集清水の観音の御詠として採歌のめしめぢが原のさしもぐさ
べれば新古今集にあるの中にあんぐらハとあるをとりて歌をあんほどに八重を生ず
佛の御多し賣僧の人を偽るしるさあり右を六帖に下坐せしめぢが原のさし
もぐさおのが思ひに身をやこがるんと堂僧りれどかるこそれとしもい
あるをそバをへて偽りしかるを堂僧りれどかるこそれとしもい
れにれバつゐしを風とあり袖中抄に八歌白いのにせんを白
多れめし秋めこれをてぬ色ゆりとあり

○光光ヲ維摩ト舎ノ講師ニナンクダサルヤウニ兼く由報ミヤ上テアレド度
くセレマスユエ由仕ミヲヤ上マシタレバシメデガ京ト伝セラレマシタシメデガ京
ト伝セラレマシタ人報報メトイフ心トなジマシテヒタスラ由報ヤ上テ
ちぎりおきし由約束ヲ仕リマシテソノハカナキサセモグサノ由云業ノ家ヲ今ト報ミ

テ待テ居マシタニアハレハレ今年ノ秋モスンダ拍子デゴザリマス ヨモヤ
今年ハトなジテ居マシタトコロ昨年モ外ノ人ニ伝セ付ウレタ拍子デゴ
ザリマスガ行卒来年ハ光光ヘ伝セッケラレテクダサリマスルヤウニ伝ニ
由報ヤ上マスル
奥福なる維摩ト舎ハ十月十日ヨリ十六日迄ヲ講師ハ九
月ニ定めらるる京ヤ講師ハ請を紫れる僧ハ宮中ハ宮
殿舎ハ講師にもせ〳〵ぬ僧にて僧の重むくあり奥福なる
八幡京ヤのもにて此講師ハ幕氏の長者ハさ〳〵せるるあり
うひ皮なびにいぬ色りハぬめハ約め祢にて秋ハいわりと
ゆふくを也（ノベ）ていふハみそれいわりハゆきにそりあるをにけ

を約めて称くいへり此こぐひゆけりをゆくめりといふハくめ
ゝ約めけ京り志ゝるめりハるめ約めれにて志ゝるれり
京りをこゝて此こをすべ志ゝ侍べしといへれど誤り京り
発りハ俗言ニ譯せバせうゆといふこ京りおごるめりハおご
侍しせうす志ゝるめりハ志ゝるしせうすゆくゝるりハゆく
せうすとゝいふこをりこれいぬゝるりいにをりとお京じ
こをゝ〳〵バいぬゝるりといを侍といに京りとゝいふべきものをせ

法性寺入道前冥白大政大臣
父ハ忠通冥白右京大夫ニ母ハ六條右大臣顕房ニ女也此入道ハ法
性寺右道ニ云此事京り続世語抄ニ此おとゞ保ニ年

冥白に京〳〵せ給ひ法皇ハ法しき同に年正
月に譲位ゝ帝位につゝを給ひしゝ摂政とヤき帝おとゝ
に京〳〵せ給ひて此一院位につゝを給ひしゝ冥白に京
らせ給ひしゝバ代ゝ帝の冥白にて二度摂政とヤきむゝ
しもいと多ゝひ京りあきるにてそ侍りゝれおほきおとゞ
にも二度京り給へり云云百錬抄に嘉保二年六月於法性寺
出家長寛二年二月薨とゝり

ゝ多の京こゝ花出てゝ見れバ久堅の雲ゐ京侍ゞおきゝ志〳〵法
詞花集雑ゝ称院御歌侍ゝ佐ゝおいしきしい時侍ゝ飛鳥井
いふことをゝ京せ給ひゝ侍にゝるめるとゝり

○海上ニ松ヲ漕出シテ遥ニ沖ノ方ヲミレバ 松ヲミバ 天ニ浪ガツヾイテ
何所ガハテカ限リカワカウヌ
松ヲいとでとぎいでてとくれみいふるゆたかに多し

崇德院

大法父ハ多田院大法母ハ待賢門院璋子天皇法諱ハ顕仁保
安四年正月受禅同二月即位永治元年十二月讓位保元元年
七月於二鳥羽一出家同廿四日移二配讃岐國一長寛二年八月崩
所治承元年七月追二崇德院一と法名ホンしらり
瀧をそせみ岩ホせのゝ瀧川れ見れてもまにあらんとぞ思ふ
切系集意訪上に歌ちゝ次と切り

○瀧ガ早サニ岩ニセカル、瀧川ノ水ノ如ニ今コソハ人ニセキトメラレテ侍ル
ズニワカレテ居テモ瀧川ノ水ガ川下デハ又二所ニ逢合ト同ジヤウニ
ホデハセ非ニサ逢フト号フ

源兼昌

父ハ源濃ち後備前兼昌ぬしハ従ち位下皇后宮大進ぶり
しらし法名にんしゝれ
ゆそぢ時鳥めぐりあひ夜に歌物ゆかしがめぬ次後れせきる
金紫集冬訪に冥途れ子ゆるといへるこをらあるとくあり
○次ノ浦カラ沖ノ方ヘ漕イテイクト子ゆノ声ハキツウ物ガナシイ
セノヂヤガ此子ゆノ時声ニナクト夜目ヲサマシタヅスマノ冥ちハ

祈ざめぬハねざめぬるんかり　次六ハ法國寺ノ法名崎

ちすゑにさしもうひて海といくほどもなきところ

左京大夫敦俊

父ハ正三位修理大夫敦孝（アキスエ）　左京大夫七度皇太后宮大夫久安四度正三位久寿二年五月

出家ト法名にんしゑ

秋風ハ雲をはらひく雲の路月のかゲのさやけさ

彼右今集秋の部のとに崇德院に百首ヨミ奉る時とあり

○秋風ガ吹タナビカス雲ノタエダヨリヅイト出ル月ノ影ガ格別ニアザヤカナ

待賢門院堀川

門院法名ハ待賢大納言公実ノ女白河院の出家子高陽院

后皇康治元年二月出家久安元年八月崩ト百首歌抄続

世継物語ハ堀川ハ神祇伯敦仲女ト有リしらし続世

継物語ハ堀川ハ藤原ノ氏ト有リ

京ゴらん九もちゝ更衣髮ハみぐれてささハそのをとゝ思フ

子載集恋部三に百首ヨミ奉る時恋の部ノ内

ゆとつけり

○夜前夢テ未ナガウトハイヒカハシタレドモ男ノ儿ガ見ネナリ未ナガ、ラウ心ガシレネバ彩髮ガ丸レハヤウニ私ガ儿ガ丸レテ抱ヲ（サテ）ヒラ

イヒカハシタ通リニ未ナガイコトガ多ケレテアラバ此ヤウニ和ヒヒヨシテ丸レハスマイ和ヲ

鄭あけれ黒髪をもてみだるる冠梓京ゴウ多くへ多り京ゴウらんも髪れ鄭語多り

後徳大寺左大臣

祖父ハ徳大寺左大臣実能父ハ大炊御門右大臣公能母納言信西ノ女也後徳大寺実定ハ寿永三年正月内大臣文治二年左大将十月右大臣已後七月左大臣建久二年六月出家ト云フ補任百孫抄ホフ元ニ云リ

ホトトギス次鳴フルコトを京ゴウ聞レバ多ク者鳴れ月ぞ残れ鄭

子栽集集鈔に時雨時多ト云ヘ鄭ハ多ラ作リ多ラ多ラ多リ

○今時多ガ鳴タハトテ鳴タ方ヲナガムレバ時多ノ鳴タアトカタ・セナンニセナイ空ニ有月ノ月バツカリガ多ゴサ多ツテアルワイツイドナヘヤウトンデイタ

定因法師

祖父ハ俊成ノ子敦頼父ハ治承歌壇孝也定因本名ハ敦頼従五位下右ノ馬助ノ子ニシテ大系図ニ今著作集ホフ元ニ云リ

和ヲ尋ヒさても命ハあるものを憂き小生へ鄭ハ多ラ多ラ集ル

子栽集鈔鄭ハ多ラ多ラ文トアリ

○ツレナイ人ヲ年月ヲ経ヒ慕ヒ思ヒアグンダニソレデモ恋死モセズ人下ハ

コタエテ有ハヨツライ（うき）ヲ変コトニコタエウレズコボレル和ハ涙デゴザルワイ

皇太后宮大夫俊業

祖父ハ大納言右衛門督俊忠ハ父ハ権中納言俊忠ハ俊業ハ仁安二年正月正三位ニ成ル二年二月皇太后宮大夫ニ成ル二年九月出家号釈阿元久元年十一月晦日薨ト云フ補任ホンニ云フ此ノ歌続古今抄ニ出ル

ちぢの中をこそ思ひしかれおもひ山ふかき奥にも志ぐれ降ぬる

千載集雑部中に述懐百首ノ歌ヨミ侍りける時藤原ノ俊成

○ヨノ中ガウイユエヨ奥山ヘ引モンダナラウイコトハアルマイト思ヒコンデ

這入タ山ノ奥ニモ藤ガサク咲ハアレカウ思ヒコンデ引モンダ山ノ奥ニモウイコトガアルカシテ悲シウ藤ガ咲バ世ノ中ヨモウハ何所ヘ行テウイコトヨノガレヤウゾヨノ中ニウイコトヲノガレニ行ヒガナイワイ

三位忠ニ二ト白を次ぎして立ぶべし

藤原清輔朝臣

父ハ左京大夫顕輔ヤ清輔朝臣ハ大皇太后宮大進正四位下ト云ハ和ニ云フ

京のゝへバ皆ゝ此ノ世ヤ志ぐれぞれんうしとみし世ぞ今ハ恋しき

新古今集雑部下に歌ヨミ交ヒ入ル集ホハ三條右大臣宮ゝ中納言にて おハしし侍ことの ハし侍ことあり

○百人一首峯樹下

○昔ノコトヲ思ヒ出シテ今ノコトヲ悔ムハ人ノ常デコレマデニ　下句うしと　ツフイト
思フメ時雨ガサ今デハ袖シ　上句　北上生ナガラヘテ居タナラバ又ウイト思フ
此時雨ガ袖シウ思ヒ出サラル、デカナアラウ
ロ五一二三と白を次第してきはべし

俊恵法師

父ハ俊頼朝臣ホリ此法師の子ら歌ヒをちひを学明お
に志るせしを思ひ給ヘ難せり

ちもすがらそれおもふとハ時やで祢やのひまきへつれなく乗りけり
子我集袖ノ二に思ひ入れ給とてうめるとて詠

○待人ハツレナウ来イデ　夜ドホシ初思ヒラスル時雨ハ袖ガアケカネテ

家恋ノスキ百ガセウハシラムカ〳〵ト待テ居レド　家恋ノスキ百
マデガツレナウシラマヌコトデゴザルワイ

西行法師

台記に西行者本左兵衛尉義清とかりて左衛門大夫康清
子法皇に仕へ給りし人ホリ百弥拙ホもれとて義ホ者
ウ鈴ホ後やとあり世俗憲清則清と出見え多れど台記ニ
ちはべし

ちぎりきしてなれをおもへ次るうとちぐはる我後の郷
子我集袖ノ已に白崇袖といへる心をとめるとあり

○ナゲ、トカテ月ガ初思ヒヲサセルカイソウデハナイ　袖ヲスル者ガ月ヲ

百人一首峯様下

見テ何トナウ悲シウナツテコボレル涙ナル物ヲソレニマア月ガ物ヲ思ハセ
ルヤウニ月ニカコツケガマシウワシガ涙ガコボレルコトカナ（かこちがほ）

寂蓮法師

父ハ俊成の弟俊海阿闍梨也此法師本名定長左中兵衛
督の猶子従五位上なり明月記に逝去の事見えたり

むらさめの露もまだひぬまきの葉にきり立のぼる秋の夕ぐれ
新古今集秋部下に五十首の歌奉りける時とあり

○村雨ガ一村フリ通リテ其露モマダカハカヌ真木ノ葉ニ霧ガ立ノボッテマツクフウナツテサビシイ夕暮ヂヤハ　深山ハイツデモサビシク秋ノ夕暮ハ何所デモサビシイニ深山ノ秋ノ夕暮ハ格別ニサビシク物悲シイ

真木の葉をもて深山のさまをいへり新古今集に真木の
立つる山とあり　真木の葉ハ深くしげるハつねく
いふをまてみといひさといふにおなじ源氏物語真木
柱巻にも書きたるをしらるとなり

皇嘉門院別当

門院聖子ハ崇徳院之后大治五年二月立后久安六年二月号ス
院法性寺忠通公女也別当ハ太皇太后宮亮俊隆女といへり
別当ハ呼名なるべし

難波江の芦のかりねの一夜ゆゑみをつくしてや恋わたるべき
千載集恋部三に摂政（法性寺殿なり）右大臣の時家の歌合に旅宿逢恋

魚をいへる心をもめぬとなり

○雑波魚ノカリノ板屋ニ魚タハ刈ツタ一粒ノクセニ（ゆゑ）　今ニ搭ヲニ名詩

惱ケレバ　死ハマデモ（刃をつくして）魚クラスデカナアウウト思ハル、

芦樗標（ミヲツグシ）ともに雑波ハ刈それをもてし魚てしうりう

此芦ハ根ヲ一節（ヒトヨ）ぬりてあ風を一粒とし樗標ハ刃をつ

くひをうせうり

武子内親王

法文ハ後白河院法女ハ大納言季成朱雀三位朱子魚院

住三宅ト大系図続群書類従にあり

玉乃緒ら絶ぬ葉ハ豊へ根ぬ葉ぐ〜ハ思ぶるるのらるりそそすれ

弱古々集恋部一に百首乃歌ハ中に思恋ハ心をとなり

○ツミカクストハスレドモシアラハレヤウコトモアラウカト兄来ナケレバ

今ノ百ニ　命ヨタエルナラバタエヨ生ナガラヘテ居タナラバツミカクス心（玉乃を）（思ぶ）

ガヨワツテアラハレモ（ゼ）サセウワイ

魚皮乃を八命ぬりそれを玉をぬく絶ふらをくうた

ゆれ葉ぐらふるらを思皆絶の絶葉ぬり

殷富門院大輔

門院ハ後白河院皇女安徳後鳥羽二代准母ハ徳院書母ハ

初ハ式ら子内大臣に文治三年六月号二殷富門院（書）

保四年四月崩御ふらし百首歌に見ル大輔祖父ハ後白河

○百人一首峯操下

境判友代ノ憲文ハ授已位上位朱なるらし諸抄にえ
らり

えせびやなをし後のあさの袖ぐみも濡ふぞ濡し恋ハうはゝず
子載集意訳ロ不分合し侍りされば意の分とてらあ所
しかり

○雄婚ノあさノヌレニヌレテアル袖サヘモヌレテアルバカリデサ私ガ
袖ノヤウニハ血ノ涙ニソマルホドノコトハナイニ私ガ袖トあさノ袖ト
ノチガヒメヲ強面人ニえセタイワイナウ

二ロ三五一トりを以ぬしして立ねべし　雄婚ハ強奥にけり

授京極摂政太政大臣

祖父ハ法性寺右大臣文ハ後法性寺関白実ハ母ハ授三位藤原
秀子女授京極良経ハ建仁二年十二月摂政ス久安年
月授一位同十一月従二位大臣同十二月太政大臣同二年四月
従二位太政大臣建永元年二月憂ト法記にあり
きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしき一人かも寝ん
秋ハ七夕集秋部下に百首ありなる時とあり
○蟋蟀ハ床ノ辺ニ近ヨツテキテ鳴ハヨコノ寒夜ノサムイニマハネヲ
シテ鳴リ深ヤウコトカイマア

きりぎりすしろにいひこのけ給へり

二條院讃岐

院大法又八坂白河院大法母八大納言源実子女皇太后聡子法
諱八守仁保元三年十二月即位永万元年七月崩御ふう
し百孫おに兄由讃岐八源三位頼政女なるし法名に兄
えうり

袖八志はひ小兄人ぬ仲乃石乃人てそ志ぬのわく波も礼し
子栽集哀物二比寄石恋といへ波ゑをとうり

○ワタシガ袖ハ潮干ニモ見エヌ沖ノフカミノ石ノヤウニ人ハシラネド
モ後ニヌレドホシデカワリ目ハコザリマセヌ

藤倉右大臣

父八右大臣頼朝母八小條時政女政子也右大臣実朝公建仁
三年九月勅撰之位下補征夷大将軍建暦三年二月正三位建
保四年六月権中納言六年十月内大臣同十二月右大臣七年正
月兼左大将補任小兄人ぬ

世ハ中八ゆくへ小もなし海ちこぐ小舟乃綱乃ごとくに
我勅撰集霧拾遺抄出ル所歌集ニハ霧拾抄ニ所載
あり千載舟歌

○世ノ中ハイツモカハラズ死ナヌモノニアリタイコトカナ サウアツメナラ考
〻此所ヘ来テタノシマウニ 法ヲ漕海士ノツリ舟ノ手デヲ引ケシキガ
ドウモイヘヌケシキデ面白イハイマア

和名集に牽縄豆奈天挽舟縄也とうり

炎上雑部

文八形部の卿經範母八弟雅女也雅經の弟久二文兵二位同
十二月炎淺同三文三月蔵と云補任ふるし多り兄京長の
八雅波弟此の八藤重井弟にて とに後堀籠社弟の祖とい
ふ家り

みなしろ山紅秋風さるふりて蛙るさと侍むく衣うの家り
彩古七集秋部に紅樹衣れ色をとつり

○吉野ノ山ノ秋風ガ吹テ来ケレバ衣フケテ此故郷ニ音ヲ立テ衣ヲ
ウツハアレ

最大僧正慈円

文八法性寺右大臣ニ位ハ延暦寺座主是快法親王也大僧正
始名八道快蔵れ元文十一月改慈円嘉禄元文九月廿三日
入滅嘉禎三文三月謚慈鎮和尚と諸抄に見へ侍る
を紙に遠文二文十一月権僧正ふて天台座主と京れ
しらしこ云へ侍り

おぶぐれくう紀世九民ふおほれ三の立抄て墨家れ袖
子我集雑部中に歌と云へ文とつり
○吾八此山ニ住ンデ天下ノ民安全ノ祈禱ヲスルヂヤガ　ワレハ不徳
ナレバ弱イ者ノ重荷デ　ガニオハヌコトデハアルコトカナ

四三二と句を次第し三れ句れの家れ初を一の句れ下に

つけて主はべし改紀抄におふぐ京くハ大膳ありといへれど
うひ山京びにハ負氣無とあ風ちるゐしるゐ左つそ山ハ信
貴大師れ而樽多良三教三昔機乃佛魚ちゐ多つそ山に
冥加あゝせ給へとゝ法れしハ魚で京ゝゐ而れ抄といふ
にて地乃名ゐゝらぬを後ふハひえれ山れ一名れ如くいひゐ
せり山に位をすゝぞめれ油にいひのけゝ油をもておほ
ひ光ゝ毛さ魚にいへり油をもておほふとゐゐゐ法華經
紀貴に見えゝゝり

入道前大政大臣

父ハ坊城内大臣実宗乙母ハ前中納言季盛ゐ女入道乙経乙ハ
負意元年八月任大政大臣寛喜三年十二月依病出家寛元
二年八月薨此乙嘉祿年中に西園寺をたてゝれしゝバ魚
墓も大政大臣とゝいへり後拾遺に云ふ

花さそふ嵐乃庭れ雪ゐゝで曇りゆく物ハ魚ゐ方ゐりけり

新勅撰集雜部ふ前花をゝゝ待りゝ風と詠り

○岚ニサソハレテ庭へ雪ノヤウニフツテクルアノ花ニハアラデ年ヨツテオ
トロヘユクモノハ京ゐ方ゐヤワイ

ゐゝし れさそふ庭れ雪れ京ゐゝでと次才してきねべ

權中納言定家

父ハ乙條三位俊家ゐ母ハ藤原親忠ゐ女也定家ゐ兄連

暦三度九月叙従三位任侍従 保六度七月民部少輔 嘉禄三
年十月蔵民部少輔 正三位 寛喜四年正月任権中納言 貞永元
年十二月叙天福元度十二月出家 法名明静 仁治二度八月二十日
薨 称京極中納言 と云 補任なふれとも
まぬ人を恋つるの浦に夕なぎにやくやもしほの身もこがれつゝ
我勅撰集数部三ふ 建仁六年内裏歌合ふと云
○キミセヌ人ヲ待トテ松帆ノ浦ノ夕和ニ焼藻塩ノ如クニ身モコガレテ
毎夕く待デキツウ苦シイワイ
松帆浦ハ淡路名所 こぬ人を待といひつゝ夕なぎを人
まつ帆の浦にとれる藻塩ハ藻を煮て上におきて海を汲

ゆく風なふいへり
従二位家隆
父ハ壬生中納言光隆 母ハ大宮大后宮亮実基女也 家隆
はじめ名ハ雅隆 あえハ度正月従五位下二度正月侍従
久三度正月宮内少輔 保四度正月従三位 文暦二度九月十
日従二位 嘉禎三度 寛元 補任ふれとも此ハ誤
為清 ふもれ
風ぬけ 夕ぎ ふ川乃夕ぎハ又そぎぞ 誤 ふしをりを
勅撰集 夏部ふ 寛喜 えと 女御入内 ふ 庚風 ふし 有
○楢ノ葉ヘ風ガソヨく吹クナラノ小川ノ夕ぎハ 涼シウテく トン

ト秋ノ心地ガスル　今ヨリ、デミソギヲスルコレバツカリガ　篝ノ沢桜

ヂヤワイ　六月晦日ニスルモノナレバ

風そよぐ八坂の社紫に色を竹川の名を皆浮しまるを

いとり　なるる社小川八山蝶國葛聖郡ふるるし

坂者祇園

大徳父八宮倉院大徳母八姉方大臣信隆乙女殖子也治暦八

年紫毒永二年八月踐祚延久九年十月讓位承久三年七

月於多賀出家同月十三日小條社ヲトシテ隠岐國ヘ

うつしまるる也　寛元三年二月廿二日ヲ國ヲ崩同月勅

下ル祇園ト謚ヲ号ル仁治三年七月改メテ坂者祇園ト

坂者祇園記ふるを

人をもをし人もうらめしつぢまぢくをを思ふ物ふ地思ふ物ふを

読坂撰集雑部に歌志ゝ　更と行ば

○天下ノコトハミナ北条家ノハカラヒテ朝廷ハ衰ヘユクヲ心外ナル世ノア

リサマカナト思フテミテモ　詮ナキ今ノ代ノアリサマヲイロ〳〵ト思

フ天皇ノ御心ノ内ニハ　賢良ノ臣ヲ挙用ヒント思ヘドモソレモカナハネ

ハアツタラ良臣ヲト思ヘバソレモヨシイシ　邪曲無道ヲ以テ天下ニ

ワガマヽニ悪政ヲ行フコトカナト思ヘバソノ至下ゼミラメシイシ　心外

ナルコトカナ

上ル二首をトのるれ次ふつけて〳〵ことはるべし　うれ波ちびふ

あらはれ出たる味噌を取て食とへて心ちよきをう
はし鍋雑をこらしたるぐいふちり出て色みうるはいでせ
むすべあまをあちきをしとへべり俗にあづくしき
といふ仏ふ日本紀ふ無岩無状無端ちどあまをとも
にあぢきをしと訓ぬるもをいうらへべり いへり

○述流

大法文八坂寺和尚流史法毋八結右大臣紀季乙女終月門院也
法諱八守業承元四年十一月受禁戒三年四月讓位同七
月住渡國ふ移し年仁治三年九月年國ふて岩法記ず
見出

百しきや古記形增北志ふ百ふ物あ所りふ所をうしをりをり
物及撰集雜部歌ちて文とつり

○人ノ家ノ年經テアレタル物ナドヘハエハ年ヲ思ブ年ト云ガ又昔ノコ
トヲ思ヒ出シテイロ〳〵思フコトヲシノブト云ソコデコノ　内裏ノ古反ノ
古キ物增ノ格子ヲ見テカノシノブ艸ト云艸ノ名ノトホリニ昔ノコ
トヲイロ〳〵思ヒ出テモノヽ　マダソンナコトヂヤナイ　セウギヤウサン
ナホドイロ〳〵思ヒ出ス　コトガアルコトヂヤワイ
垣衣ふ偲をいとこのけ詠べり　百しきハ大内ふ冠禄ふ
ゆしを及ふをこしきと訓みふて宮ふくくせり 禄俗
無ふ俗とつでそしをしき俗と訓みいふづごとし

右の二法代の帝ハ北條氏の爲ハまざに大法危をなや
彼せ給ひそれバかて織大臣おもるみ出給ひしなりお
なうして天皇をたもや免彼つりし北條のさこのしまわ
ざるいともにく彼しくうら免しくこれぶみも称お
彼りていたんかしなくあん

百人一首峯梯下巻終

高橋の色の橋の衣川の大人兄もゆふ
かづらき山の神なら孫が玉がれの小倉の
峯にかけはしかけまうて杉むら払ふ流ふ
〳〵まうの花に滝なへるこものをまうち松に
うるめるに増のよめんと結ふまうんいうぶ紀いさ
をとみかあ里なる物のれ大人の此をとへるをな
ぬ人ゝまもそうつゝれひらゝくやかに川の中よく
られのうけたるふみ兄せばやと思ひてこそび

はつかまで梅ぞ高くさかりける　梅を惜む

乃ちわらせば春ぞ梅のちるべきかなと

大人の出家あび屋にをくめ梅ぞちる

大秋　敏系

衣川藏版

和讀要領辨

新古今集清水玉

金槐集解

右近刻

文化三年寅八月發行

弘所　書林

江戸　白銀町二町目　須原屋善五郎
大阪　心齋橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛
因幡　鳥取　松坂日野町　柏屋正次郎
伊勢　寺町松原下ル町　柏屋兵助
京都　同町　梅村三郎兵衛
同　三条柳馬場東入　勝村治右衛門
同　心齋橋通南久宝寺町　錢屋利兵衛
大阪　河内屋直助